

令和3年度 自己評価・学校関係者評価結果 公表シート

学校法人 山縣学園

北山幼稚園

1. 本園の教育目標

モンテッソーリ教育法に基づき、幼児のありのままの姿を認め、受け入れ、個々の発達段階に応じた適切な指導を通して、豊かな個性と確かな判断力を兼ね備えた、個性あふれる人格を育む教育に取り組む。

具体的な教育目標としては、

1. いかなる環境にも適応できる柔軟さと逞しさを培う。
2. 成長する喜びを実感する。
3. 友を思う優しさを身につける。

の3点を掲げ、本園においては学校教育法、及び、幼稚園教育要領に示されている精神に則り、「健康」、「言語」、「人間関係」、「環境」、「表現」の5領域にわたってバランスの取れた独自の教育を行っていくものとする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組む事が必要な目標や計画をもとに設定した、学校評価の具体的な目標や計画

●モンテッソーリ教育法に基づく活動を通して、自由と責任の中で自らが考え、選び、自らが成し遂げていく、個性あふれる力を養うことに主眼をおきつつ、以下の内容に取り組むものとする。

- 教育内容・教育方針・教育目標を理解し、子供の成長や発達段階に応じた保育・指導計画をたてるとともに、より良い保育の環境づくりに努める。
- 教職員同士の協力・連携を深め、園内における情報の共有はもとより、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みつつの判断とはなるが、研修等への参加を通じて得た知識の共有により、保育の質の向上と保育者としての資質の向上に努める。
- 危機管理対策を含め、園の安全と衛生管理体制の充実に努める。
- 全学年を通じて、より様々な観点から英語活動に力を注ぐとともに、英語に特化したクラスを中心として子供たちの国際感覚を養うことに努める。
- 国際感覚を養うにあたり、母国語、原点としての日本語にもあらためて重点をおき、新たな取り組みを含め、言葉の表現・文字の美しさを表現する力を養うことに努める。

●学年別年間目標

- 年 長：自分の気持ちや考えを表現しながら、様々な活動に主体的に取り組む、意欲的に園生活を送る。
- 年 中：色々な事に意欲的に取り組み、達成感を味わう。
- 年 少：基本的な生活習慣を身に付け、幼稚園生活を楽しむ。
- ひよこ：保育者と関わりながら、安定した園生活を過ごす。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	取組状況
① 幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育方針に従い編成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○新幼稚園教育要領について全職員で理解に努め、現実的な保育に添わせるよう具体的な場面について話し合い、教育課程の編成にあたっている。 ○昨年度に引き続き、本年度もコロナ感染症拡大の為、保育体制の変更や、各行事の実施方法の変更を余儀なくされ、状況に応じて検討し、縮小・変更を行っている。 ○モンテッソーリ教育を実践すべく、子供の気持ちに寄り添い、仕切りの少ない園舎にて、園児が主体となり、活動を展開していける空間と、それに対応する人員の確保と配置に常時心掛けている。また、集団での活動を苦手とする園児に対し、園庭や自然園で自由に活動できる時間と人員を配置する配慮をしている。
② 子供の実態を的確につかみ、理解し、保育のあり方の検討と、具体的な手立てを講じる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学年会議・職員会議を定期的に行い、毎日の終礼において日々の問題点について検討し、都度調整を加えながら、教育計画・保育計画を実践している。園児1人1人の発達・行動に留意し、各会議にて報告・検討を重ね、全教職員が共通理解の上、子供の実態に合わせた保育活動や時には援助を心掛けている。 ○特に気になる子の行動には注意を払い、共通認識のもと、担当学年の枠を超えて対応に当たる等の配慮をしている。 ○個別の配慮を必要とする園児に対しては、医療機関・療育機関・支援団体と連携し、支援計画を共有する事により、教職員間でも共通理解をした上で、集団内や、時には個別での援助を日々実践している。その上で発達と学びの連続性を保つ為に、自治体や小学校との引き継ぎ等を行っている。
③ 保育者としての能力や良識を確認する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が自己評価を実施するとともに勤務ノートの記入の確認を行う事により、各教職員が保育者としての能力や良識を確認し、反省・見直し、改善努力を行っている。 ○適宜、園長・副園長、他、主任格の教諭が学年の枠を超え、様々な保育活動に参加する事により、若手教諭の育成や指導、ベテラン教諭との意見の交換を行い、常に緊張感を持ち、お互いが常に刺激を与えあうことにより、教育者としての資質や能力・良識を高め、保育の質を高める努力を行っている。
④ 各研修会や研究会に参加し、他職員へ資料提供をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○例年であれば、適材適所の教職員を、外部での様々な研修への参加を促し、保育の中での学びを深め、そこで得た研修の成果を他教職員へ共有し、教材研究へと繋げてきたが、本年も昨年同様コロナ禍の感染防止の為、実際に常に子供の中で保育活動を続けている保育者の研修への参加は控え、管理側の職員がいくつかの研修に参加することにより、様々なポジションの保育者にフィードバックするとともに、園内において保育者同士での研修の機会（特にwithコロナの中で行う発表会に重点をおいた、人材育成の為の新たな取組としてのダンス研修）を頻繁に設けることにより、各保育者が表現力の向上と指導力の研鑽に努めた。
⑤ 安全管理と衛生管理に努め、日々の訓練と予防を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地震・火災の災害を想定し、毎月、全園児・職員参加での避難訓練（本年は出来る限り密を避ける形で）の実施、毎月1日には災害伝言ダイヤルを利用した保護者への緊急時の連絡の訓練を行うとともに、府中市・警察による交通安全教室、消防によるAED講習（職員対象）を毎年行っている。 ○遊具の点検を行い、子供たちが安全に遊ぶ環境を常時提供することに努め、その中で残念ながら怪我が発生した際には、目視だけでなく、各所に

		<p>設けた監視カメラを利用して原因を究明し、次の事故を防止する為の検証を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年一回、医師による内科検診と、歯科医による歯科検診を実施している。 ○毎朝各家庭から、携帯アプリを利用して検温報告を受けるとともに、出席確認の際に視診を行い、体調の変化等にいち早く気付けるようにし、変化が見られた時には園長への報告と適切な判断・処置、状況に応じて保護者への連絡を行う等の対応を徹底させている。 <p>子供が登降園する玄関に設置された、非接触による検温機器により登園時の園児と来園者の体温管理を行うとともに、発熱が確認された園児に対しては隔離しての対応等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○以前より、園児には都度手洗いとうがいの指導を徹底してきたが、コロナ感染症が発生してからは、登園時、園バス利用時、各保育活動の前後、食事前等にはアルコールによる手指消毒を徹底し、園児が手にする、玩具、机、椅子、ドア、トイレ等をはじめ、床面等にも消毒作業を行っている。 ○園バスにおいては最大8台（事務車両を含めると9台）が運行されているが、園児の乗車前と乗車後の車内消毒作業、及び、乗降時の園児の手指の消毒、運行時の換気を、徹底して行っている。 ○コロナ感染症拡大予防の為、窓や扉は大きく開けて換気を行い、冷暖房時にも1時間毎に10分程度換気を行っている。 ○熱中症対策・感染症対策として、園児にこまめな給水の声掛けと指導を行っている。 ○感染予防を目的として、昼食時の密を避ける為に、食事は時間差で交代して摂ることとした。また、教職員は、園児の食事中は食事指導に努め、一緒に食事をとることは避け、交代で離れて摂ることとした。
<p>⑥ 保護者への適切な対応と、家庭との連携、及び、地域社会との連携を図る。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全園児保護者に携帯アプリの幼稚園向けICT支援システム「コドモン」への加入を促し、保護者からの連絡、園からのお知らせ、出欠の連絡と登降園管理他、様々な事についてアプリを利用する事により、相互が情報を共有している。 ○毎月、園だより（学年別）をプリント配布、及び、ホームページに掲載し、園での生活風景の写真についてもホームページ上に掲載する等、コロナによる自粛登園をきっかけとして、前述のコドモンと合わせ、プリント等、紙ベースの配布物で行われていた連絡やアンケートなどについても電子化して、急な欠席や在宅時にも様々な連絡を相互に受け取れるシステムの構築を行っている。 ○コロナ感染症拡大により、毎年行ってきた学年ごとに行なってきた個人面談については希望者のみとしたが、必要に応じてその都度行うスタンスは変更せず、リモートでの面談を取り入れつつも特に対面を希望・必要とされる場合においては感染状況を見ながら、適切な換気と仕切りの利用や距離を取っての面談を実施した。 ○例年、数多くの参観・行事を実施してきたが、本年もコロナ感染症拡大の影響で今迄同様のスタイルでの実施が困難となったが、各行事の内容や時間を再検討し、学年単位ではなく、クラスやグループ単位での行事に変更し、親子で参加できる行事や、保護者の参観を可能とした。 ○節目節目で保護者にアンケートをお願いする事で、保護者の思いや意見を知ることが出来た。 ○本年もコロナ感染症予防の為、就学時に向けた公立・私立の小学校との交流、給食施設の訪問は中止となり、園庭開放についても差し控えさせていただく事となったが、感染者が少ない時期における、教育実習生の受け入れについては可能な限り協力を行った。

<p>⑦ 積極的に英語教育を取り入れ、国際感覚を養う。</p>	<p>A</p>	<p>○少人数で行う英語に特化したラビットクラスは年少から年長まで各学年で多くの子供が参加し、それぞれの年齢、経験に沿った学習内容・速度でネイティブの講師により英語での日々のコミュニケーションを強化、環境づくりに努め、信頼関係を深め、臆することなく外国人と自然に交流出来る力を育むことが出来た。</p> <p>○通常クラスにおいても、ネイティブ講師や専門的に英語教育を受けた日本人講師による数多くの幼児英語教育の活動時間において、無理なく英語を耳で楽しめる様に、リズムのある自然と受け入れられる楽しい環境づくりにつとめた。また、本年より絵本『はらぺこあおむし』を取り上げ、お絵描きを楽しみながら色彩感覚を養いつつ、リズムと振り付けを加え、発表会で絵本を英語劇風にお披露目することを目指した正課授業を、年長クラスにおいて展開することで、より英語を身近に感じ、親しんで学習出来るよう努めた。</p>
<p>⑧ 日本語の言葉の表現・文字の美しさに改めて気づかせるとともに、就学に向け学習へとつなげていく。</p>	<p>A</p>	<p>○英語教育に目が向きがちな昨今、今まで各学年ごとに各保育者によってカードやワークブックを利用して日本語のかなの読み書きの学習を進めてきた日本語の文字学習にも再び光を当て、今年度新たに机や椅子を購入し、落ち着いた空間で文字の学習に取り組める環境づくりと、特に年長クラスにおいては新たな講師を迎え、就学を見据えた新たな目線での文字学習に努めた。</p> <p>○年長組においては今年度、講師と保育者の指導の下、約半数の園児が全国書道書道伝統文化大会 令和3年度全国年賀はがきコンクールにチャレンジし、好成績を収めることが出来た。</p>
<p>⑨ 各学年が目標に向け、向上心を持ち、子供達の成長に寄り添って進んでいく。</p>	<p>A</p>	<p>○本年度もコロナ感染症の拡大による自粛登園と、陽性者の発生により、感染拡大を抑えるために休園をやむなくお願いする事もあった。全園児が揃うということ事自体が難しいものとなり、各活動や、子供本来の元気な声で遊びに興じる事すら制限され、園生活に馴染む事もなかなか難しい状況が相も変わらず続いたが、環境づくりや保育方法・内容を検討・工夫をする事により、園児と保育者の信頼関係を回復・築くことは出来ていた。また、教職員一同が日々各々の目標や、子供達の成果発表の場に向け、互いが様々な議論を重ね、研鑽を磨く姿も見られた。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
<p>B</p>	<p>残念ながら新型コロナ感染症は終息する気配を見せず、昨年同様、日々の感染者数のニュースや行政の指導等に多大な影響を受ける一年となったが、園生活においては行政の措置に合わせ、通常登園と自粛登園を繰り返しつつも可能な限り平常での運営に努めることが出来た。</p> <p>家庭での保育が可能なご家庭に協力を頂きながらの自粛登園期間においても、年度終盤になると8割を超える園児たちが登園するようになり、保育活動においてはほぼ通常の過程をこなしつつ、年度前半に中止・延期となっていた行事を感染者数の推移に留意しながら可能な限り実施し、修正や変更を加えながらも子供たちの思い、保育者の思いを込め、その成果の発表の場とすることが出来た。</p> <p>保育・指導計画においては、その時の状況に応じ、変化や変更を求められることとなり、関係する教職員が連携し、その都度先送りすることなくディスカッションを重ね、対応することが出来た。また、同様に教職員の大多数が参加し、翌月やそれ以降の保育活動・教育活動に関する事を協議する場所であった職員会議についても、その開催回数を減らし、その会議に至るまでの過程において、常に活動を共にする保育者グループ、またそれをサポートしていく保育助手・職員間での少人数でのグループ会議に比重を置き、ICTを活用することにより、情報の共有に努めながら、同時に保育者間での感染症対策にも考慮しながら、教育課程の編成・教育活動を今年度も滞ることなく進めることが出来た。</p>

	<p>しかしながら、保護者及び保育者間でのICTの活用により、広く情報が共有出来る様になった反面、専門性・独自性のある情報においては、各々の教職員のモチベーションや意識の違いにより、理解度に差が生まれ、その差を埋める対応が求められる等課題も生じる結果となった。</p> <p>当園ではコロナによるクラスターの発生には至らなかったが、在籍園児の通園地域が複数の市にまたがる特性上、年度後半になり、異なる地域や兄弟関係の複数学区において感染が広まることにより、園内感染ではなく感染源が異なる家庭内感染等による陽性者や濃厚接触者が発生するようになった。それにより、幼児保育という特殊な職業上、保育者への感染リスクが高まる事となり、不織布マスクの着用、こまめな手洗い・消毒、昼食時の仕切りの設置と保育者は園児と一緒に食事をしないというルール等の下、保育活動を進めてきたが、園児の感染者数の増加と共に保育者にも感染者が相次ぐ事となり、やむを得ず休園の措置をとった。それにより、感染や濃厚接触の為、保育者に欠勤者が相次いだり、出勤可能な保育者が担当学年の枠を超え、屋外での保育や換気が十分に行われている環境づくりを行った中において、献身的に保育活動にあたることにより厳しい状況を乗り越えることが出来、また、当園の保護者の中にはソーシャルワーカーも多く、その保護者の方々の活動の支えとして微力ではあるが協力が出来たのではと思われる。</p> <p>このような状況の中ではあるが、①幼児英語教育の一環として「はらぺこあおむし」を題材に英語と音楽と色彩感覚を融合した取り組みや、②母国語たる日本語の言葉の表現と文字の美しさを知り、就学に向けた新たな文字の学習の取り組み、③園内での新たな取り組みとしての職員同士で行うスキルアップを目的とした研修活動、等により、当園の教育活動・教育水準の向上に努めた。</p> <p>これらの事より、コロナ禍という、先の見えない、100%本来の教育活動の体制を整えることの出来ない状況においても、子供たちの未来への道しるべとなるべき幼児教育の一端を提供できたのではないかと考える。</p>
--	---

◎ 「3.4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題(継続、及び、新規)

課 題	具体的な取り組み方法
① より良い指導計画の編成	現在、本園に在籍している園児の実態を実際に観察、精査したうえで、子供を取り巻く家庭環境等も踏まえ、各年度保育を担当していた保育者の意見を反映した形で、新教育要領に基づいた指導計画の作成の為に訂正、加筆をさらに加え、現在のコロナ禍における保育の在り方や行事の内容や編成等も考慮し、本園が抱える環境や問題点についても職員全体で話し合いを重ね、その実態に即した新たな指導計画の編成に一丸となって取り組んでいく。

<p>② 自己点検・自己評価と教職員の資質向上</p>	<p>自己評価における課題について、教職員一人一人がより突き詰めて考察をすすめ、自己研鑽に努めていくとともに、本園の教職員としての自覚と意識を常に持ち、責任ある言動に心掛け、子供の成長に寄り添い、幼稚園教育要領の改訂を意識しつつ、子供の主体性や学びを大切に、より専門性を高めるべく、可能な限り研修等にも積極的に参加し努力する事で、幼稚園教諭・保育者としての資質や能力・適性を高め、知識・意識・技術の向上に努めていく。</p>
<p>③ 危機管理対策の徹底</p>	<p>現在のコロナ禍における衛生対策については、本園の非常勤の看護師、園医・保健所との連携、及び、指導の下、現状の対策をより確実なものへとステップアップを進めるとともに、防犯に対しては警察署主導の下の訓練を通し、各職員が常に意識を忘れず対応していくものとする。</p> <p>防火防災に対しては月一回行っている訓練を行うだけでなく、防火防災管理者を中心とし、新たに消防計画を作成し直し、非常時における全職員の役割分担を明確にし、訓練においてはそれに則り、意味のある訓練としていくものとする。</p> <p>送迎バスの運行においては、交通ルールに則り、園児の安全に細心の注意をはらうものとし、置き去り対策として二重三重のチェックと第三者のチェックを必ず行うものとしていく。事故に対してはその大きさや程度に関わらず、園長・関係部署への連絡、及び、警察署への連絡をするものとする。</p> <p>園内における事故・ケガに対しては、園長(副園長)・担任への報告・保護者への連絡・医療機関等への連絡と対応を行うとともに必ず記録を残すものとし、その後のフォロー対応までの流れをマニュアル化していくものとする。</p> <p>危機管理に対してはすべての対応をマニュアル化するものとし、全職員が対応出来る様、日々の訓練を実施していくものとし、安全に対する意識の向上に努める。</p>
<p>④ 預かり保育における縦割り保育の更なる充実と職員の連携</p>	<p>通常保育後に引き続き行われている午後の預かり保育時間は、親迎えの園児とバス利用園児(バス出発時間により2グループに分割)に別れて過ごす事となるが、縦割りでの保育を基本とし、本来であれば、預かり時間専任の保育者が担当する事が好ましいところであるが、現状ではほとんどの時間を通常保育の教職員が交代で担当しているというのが実情である。通常保育職員の負担軽減と、教材研究の時間の拡充の為に、専任保育者の補充が急務であると考えられる。また、縦割り保育には上の子が下の子のお世話をする等の良い所もあるが、どうしても体格の差による怪我等の危険が伴うため、保育者は常に観察を必要とするとともに、保育内容や方法に工夫をする等の準備に努めるものとする。</p> <p>また、通常保育の担当者と預かり時間を担当する保育者は、常に情報交換などを密に行い、園児の安全を第一に、連携を意識して進めていくものとする。</p>
<p>⑤ 保護者との連携と満足度の把握</p>	<p>昨年度より、携帯アプリの幼稚園向けICT支援システム「コドモン」を導入する事により、電話とホームページ以外のほとんどの情報共有がアプリでのやり取りで可能となった。今まで紙での文書やアンケートというもので電子化しアプリ上でのやり取りで行うことが出来る様になり、保護者との情報の連携は以前よりもスマートに行なえるようになった。担当事務職員においてはこの1年でそのスキルを向上させ、様々な機能を理解しているが、保育に携わる側においてはなかなか使いこなすというレベルには至らず、全職員への知識の共有と、教職員が自ら教育・園内研修などによってスキルの習得に努めていく事が新しい生活様式の中では必要と思われる。</p> <p>またアナログからデジタルへの変換は共有する側だけではなく、授与される側にもある程度の理解が必要となる為、どのようにして保護者側にも意識を変えていただくかという事が引き続き課題のひとつとして挙げられる。ただ、保護者への対応はこの技術のみに頼るのではなく、多様性をもって、アナログな努力によって成り立つものもあるという事を忘れずに、接していく必要も大切と考えられる。</p>

<p>⑥ 新たな取り組みの継続とその向上</p>	<p>教育活動として今年度新たに取り組んだ、英語教育と文字指導においては十分に教育の質の向上につながったと判断が出来ており、今年度も継続して該当学年を中心とし行っていくものとする。但し、同じ質で良いというのではなく、同レベルで良いと思った段階で、質の低下が始まるという事を常に意識し、前年度の反省を踏まえ、よりステップアップした取り組みを行うものとする。現在外部講師を起用しての取り組みの為、園と連携して当たるものとするが、今後のその動向、質や内容によっては、当園の保育者への転換、または、他外部講師への転換も一つの選択肢として考えておくものとする。</p> <p>人材育成の取り組みについては、今回の踊りやダンスの指導に向けた内部研修にとどまらず、今までの外部に研修に行くというものに頼ることなく、様々な内容や、生じた問題点などについて、保育者同士による情報共有を行い、切磋琢磨し、自己研鑽に努めるという、内部での研修や講習を機会がある毎にグループ単位や全職員で行っていくよう努める。</p>
--------------------------	---

6. 学校関係者の意見・評価

<p>本年もコロナ禍での一年という事で、感染拡大を防ぐための7日間という休園措置の正当性の有無について多少の意見交換がなされた点以外においては、特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。</p> <p>○教職員は、子供の安全を第一とし、主体的に活動できる場を、いつでも提供できるよう、日々努めていくものとする。</p> <p>○行事や参観については、保護者からの意見の中には、コロナ禍の中、延期や中止、規模や内容を縮小してはいるが、行事を開催した事への感謝の言葉と、中止せず行ってほしいという言葉、また、観覧人数についての意見が寄せられた。</p> <p>○園児がケガを負ってしまった時の対応について、マニュアルに沿って全職員が対応できるよう教育を行うこと。 (特に保護者への対応には細心の注意を払い、誠意を持って対応すること。)</p> <p>○教員であろうと、バスの運転手であろうと、事務員であろうと、園児から見れば同じように先生なのであるという事を意識して、行動や言動に注意し、常にこどもと共にあること。</p> <p>○昨今、送迎バスの事故がニュースとなることが度々ある為、北山幼稚園においては送迎バスの運行は安全を第一とし、出来得る限りの危険を察知・排除し、業務にあたる事。(もしもの際には、小さな事でもきちんとした対応と関係部署への報告を行うこと、些細な事でも気になったことはその日のうちに対応をすること)</p> <p>○コロナ終息が見えない現状において幼児におけるマスク着用の是非について保護者によって意見の相違が見られるが、概ね送迎バス利用時においては保護者の理解の下、乗車時の着用は出来ている。今後、理解の得られない園児・保護者に対する対応をどのようにしていくかの検討を行うこと。(場合によっては厳しい対応をとるべきではとの意見も有り) また、保育時や集団での活動時においては、子どもの体調や特性によって判断しつつ、臨機応変に対応していくのが望ましいのではとの意見が多くあり、場合によっては医療機関・保健所等各所機関に意見を求めながらの対応としていくこと。</p>
--

7. 財務状況

<p>公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。</p>
